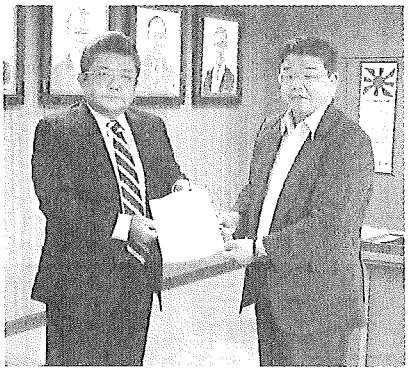
北海道通信　平成24年8月2日【木曜日】

各企業等の社会貢献

宮坂建設工業が浦臼町と災害協定

地域の安全・安心を守る

独自での自治体との締結は初



【岩見沢発】宮坂建設工業㈱（帯広、宮坂寿文社長）は七月三十一日、浦臼町と「災害等における支援に関する協定」を締結した。同社が独自に自治体と協定を結ぶのはじめて。宮坂社長は「通報を受ける前に出動できる体制を整えたい。できる範囲で一生懸命取り組みたい」と地域の安全・安心を守ることを約束した。

同社が浦臼町に災害協定の締結を提案したのは、ことしの四月。執行役員の葛西正喜氏と技術部長の横堀将氏が開発局在職中にこの地域の事業にかかわってきたことがきっかけ。両氏は「石狩川沿線の中でも湛水被害が多く、災害リスクが高い地域」と認識。この話を聞いた宮坂社長が今回の協定締結を決めた。

調印式には、宮坂社長と斉藤純雄町長をはじめ、同社役員や同町幹部が出席。署名と調印した協定書を交わした。

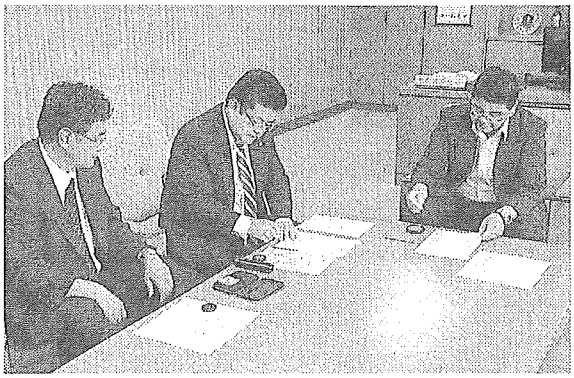
宮坂社長は「今後、この地域の気象情報にも注意したい。通報を受ける前に出動できる体制を整えたい」と話した。また、例年行っている同社の大規模な防災訓練についても「必要があれば来年にも実施したい」と表明した。

斉藤町長は「自然災害が全国各地で頻繁に起きている。町民の関心も大きく、今回の協定締結は大変心強い」と期待を寄せている。

北海道建設新聞　2012年（平成24年）8月2日（木曜日）

浦臼町が宮坂建設工業と協定

自然災害発生時の応急復旧支援



協定書に調印する斉藤町長（右）と宮坂社長（中央）

【岩見沢】浦臼町は7月31日、宮坂建設工業（本社・帯広、宮坂寿文社長）と自然災害発生時の応急復旧業務について協定を結んだ。協定は同社が4月に提案し、協議を進めてきた。同町内で災害が発生した場合、同社の札幌支店から応急復旧に必要な建設機械、資材、人員が派遣される。

同町が町外企業と協定を結ぶのは初の試みで、同社も、自治体と単独で協定を結ぶのは今回が初めて。

同町では昨年、大雨により小規模な土砂崩れが複数箇所で発生したが、復旧作業できる地元企業が少なく、災害対応に危機感を抱いていた。同社は毎年、帯広や札幌で地域住民参加型の防災訓練を行うなど災害対応に尽力している。

協定は、同社札幌支店営業部の横堀将技術部長の発案で実現した。横堀氏は、前札幌開建樺戸農業開発事業所長。在職当時は、石狩川の水害対策に取り組み、浦臼町では実現には至らなかったが排水機場の設置を検討したことがある。

同町役場で行われた調印式で宮坂社長は「浦臼町は地形的に水害が起きやすい。常に天気図や降雨量をチェックして災害を予測し、町からの連絡がなくても出動する体制を整える」と約束。斉藤純雄町長は「東日本大震災以来、町内でも災害への関心が高まっている。民間と行政がタッグを組めるのは、大変ありがたい」と感謝した。